

武藏野話

二

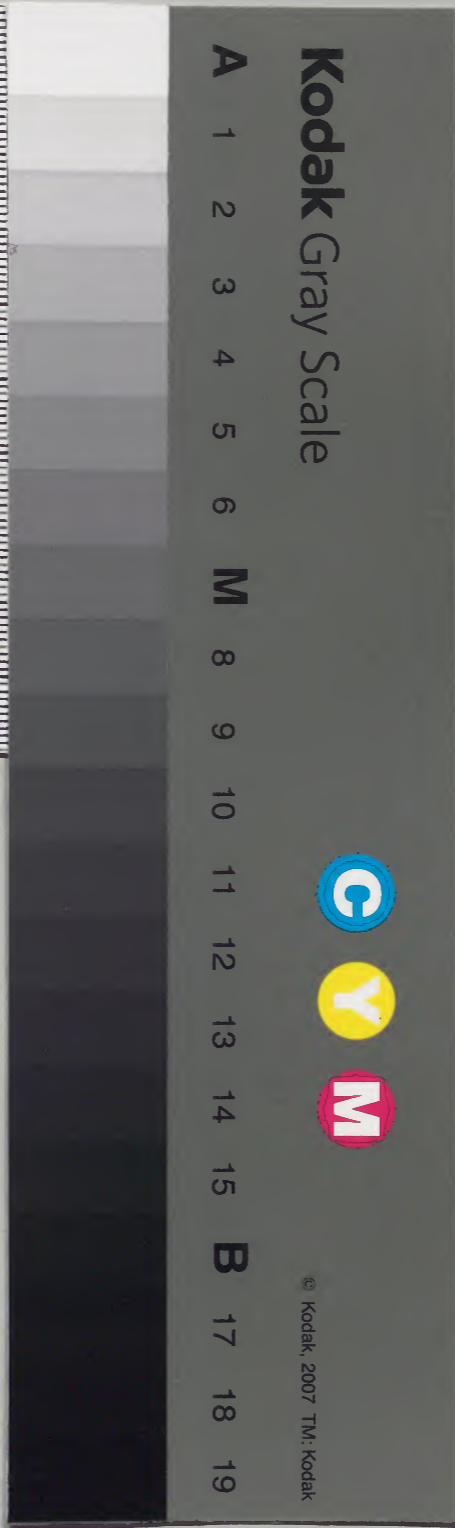
内閣文庫			
函	冊	號	類
三	三	三六	和書
架	冊	號	類



地八三

内閣文庫	
番. 號	和 36436
冊 數	3 (2)
函 號	174 6

共三



四ノ



野々原村の隣村に下新井村といふありまゆら老母村の下新井ありし
 かつて此比より別村とありて然れども祠の叢祠ありつねのこら
 祀りてや洋ありて神威之上氏世に是と守りてを此墳墓に石碑
 あり中間より折るる此六十年多かりて野村の畑より穿出たり
 と之上氏自分の墳墓の地へつりてを此武蔵野中ノ正示の石
 あり今ありて石ありて國なること一此村之上倉片は氏と
 古より



野々原

三四

版玉齋

久米川村



橋

久米村



久米川

水

八道典准后の紀久事河といふ所は甲府家より井あがむとて
とて河を汲て朝夕もちあはるゝとあんやれむ

甲府の向く川とゆふをふかき水のことありしをせめ
けは正菱の及川原上枚挑戦の海あり軍の水草やあふ

小金井村ハ山田北條氏の比上野金山の幕下ニ小金井野を為門
の築地ありけ付小金井十郎と云ふ山令井守女正あむとて父正見
物の名あむん今け付村鴨下早雲の氏と云ふ子村のちと西へを
ふかき流る上水ハ羽村とて河より多麻川と分水け地と流る江戸
田よりけるけ上水ハ橋の山令井橋といふ橋の左右一里半汁水
に傍て榎樹多し元文二丁己歳縣官は植立とてハ榎實の水毒

と消也あゝ春花の時海水く咲くも景色いまん部橋の心秋
紫控現の河河堤内ふ石碑あり種明更あむの徳也

武蔵國不石原とて地名二箇所あり太平記武蔵野合戦の章
に鎌倉系より石原を坂東道四十里と片時なる進付し
とあり多麻村と牛原とて地あり是あり一里半差入
間が水は村松河が橋の邊より堰入間川と云ふれが里敷
とあり同章に石原と渡して河の向北岸より一里半と立
とありとて河を是も多麻川の流る川の向ハ二里半
とありとて岸より一里半屏風と云ふとあり今も牛原あり
とあり又同書鎌倉合戦の章に南遠江とて今日の合戦と打

小金井村



鈴木村

北

美社

鈴木村の北にありて
鈴木村の南にありて

牛濱

舞



三ノ上

三ノ下

二ノ上

田

津波をたふしを具置し置りて石濱をたぐりてあつた
 地ありつればはる石濱と牛濱と池ありや牛濱は原ありて建業
 の後後生村越川村の農民此地を開墾して住居する中
 とありぬゆふの側を福生の牛濱南は側を越川の牛濱とい
 又又其の地の石濱も千葉次郎胤利の居城ありて此地は
 利あり能家寺といふも境内に次郎胤利の墳墓ありて是を
 千葉塚といふ又福清常陸次郎新守の居城ありて此地は
 石濱も江戸のいもは末崎の邊ありて鎌倉大坂の義
 石濱も此地あり二所の石濱ありを混ぶべくは
 関戸といふは関戸郷小山田庄と稱すは長比村と稱すは

入谷世遷の西は谷を越て城山といふありて山の頂に大守春といふ
 いづれの比城ありや洋ありて佐吉此地は小山田の関といふ地あり
 て南より関入口の郷ありて関戸の郷あり

夫木集 遠中と真水は但馬をこえは小山田の関 前大綱言為世卿

建久の比深形朝卿後園之家の将々九時鎌倉と發け地は宿沢
 曾我足身佐理を稱すは是より入関野ありて射も将あり或
 る形羽之代記は眞上毛行城の軍と發す時ありて関戸の
 大将と定むる申諸事又戦う後元弘は比新田を將徳念義
 時入野川又米川分信河原の戦ふ徳念勢十善将といひ新田將
 小不意を討て大将四郎左近入道既不為ふといひ討ぬべと横

溝ノ節増多ク故二十之結と討取主従之人討取テ川村の入口に此
 方小関門山延命寺と云ふ寺の赤土墳墓あり安保入道父子二人
 從兵百餘人之外平代恩威の去言傳人討取テ後で即ち其
 方山内へ引退テ左中將入道一日退留テ其外義助義宗
 度々此所へ今ハ中太平記あり其を略しぬ其後永保の比豊後
 國の佐伯市助道永と云ふ者氏長氏輝平山守小仕一関戸の城と
 守テ此村中へ立吉祥山壽徳寺と建立の関基ありと云へ此居
 所は邑の入口に在り佐伯谷と云ふ即ち此地あり永保十二年己巳二月之
 隆興中戦死すお後の子に傳テ道也和泉守道安此地へ
 住居す其子より及氏あり今ハ其裔ありと云へ今相傳

氏は坊傳す所の古徳文あり即ち此記す此書面山あり所の有山
 氏の家今ハ絶えたり
 四五五
 四五四
 四五三

44 川 |
 有山深慮の友
 天正十三年
 義輝將軍の比

川 44 川 |
 其地實に成堂也
 正徳元年
 有山深慮の友

44 川 |
 開戸郡中河原
 正徳十三年
 有山深慮の友
 此三枚
 ニツ折

天正ハ後奈良帝の御宇
 義輝將軍の比

乙酉ハ天正十三年
 正親町帝の御宇

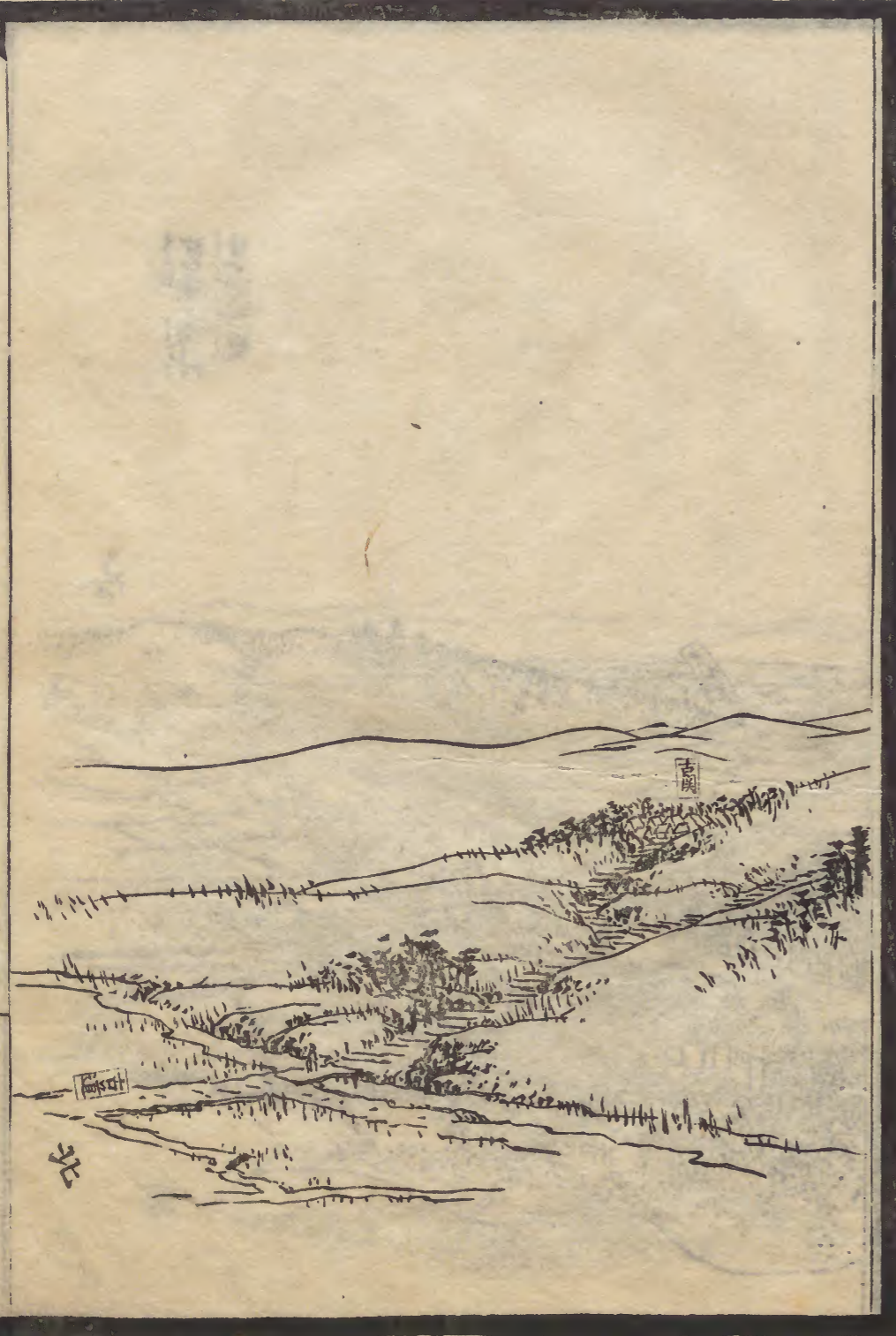
聖言

関戸村



五三齋藏

野話



四三

坂上齋藏

野話



野話

四九四
坂玉齋藏

菅根崎村
菅根崎



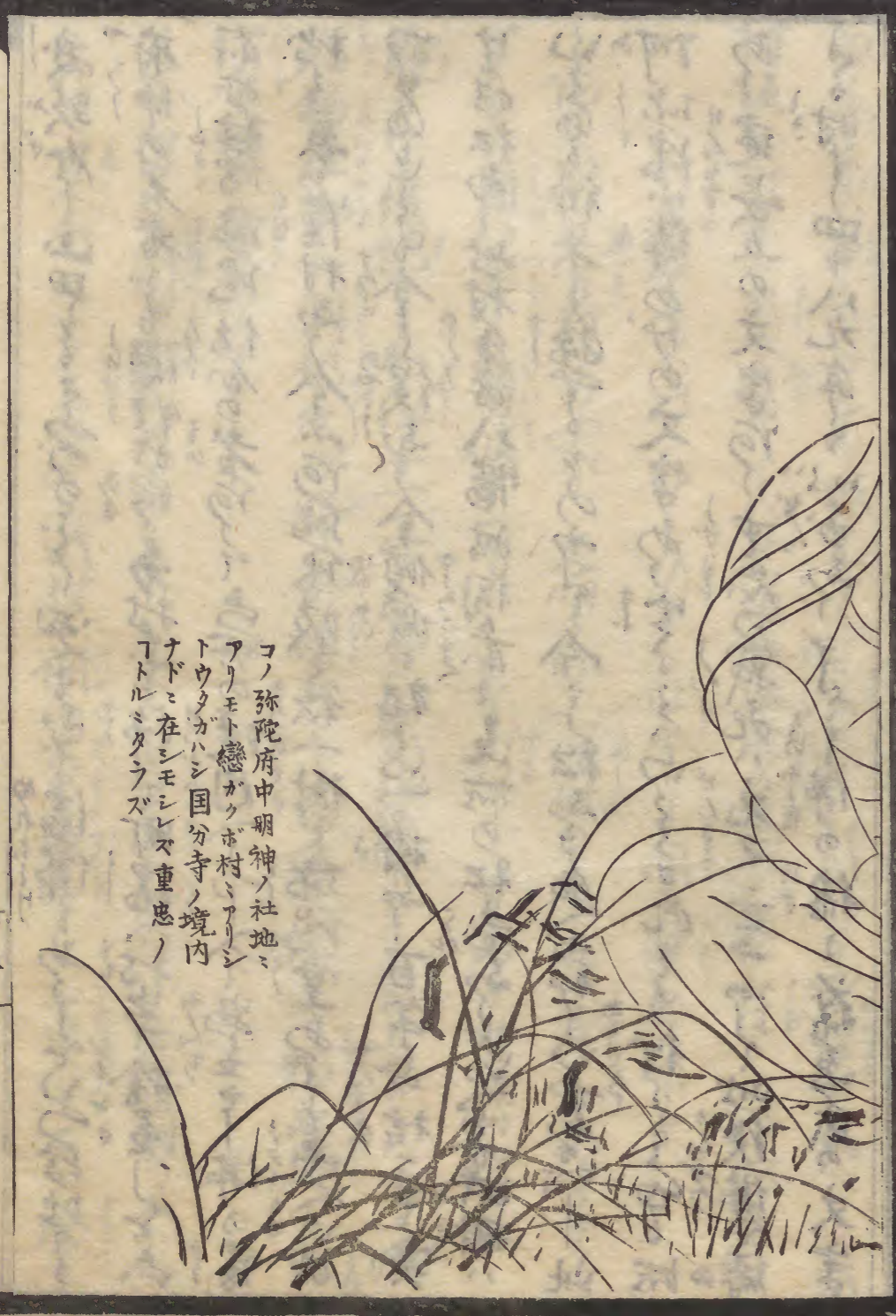
坂玉齋藏





大御進念阿弥陀佛、庚子藤原助近
 建長五年二月丙寅、初日

藤原氏



コノ弥院府中明神ノ社地ミ
 アリモト戀ガクボ村ミアリシ
 トウタガハシ国分寺ノ境内
 ナドニ在シモシレマ重忠ノ
 コトルミタラズ

友政年山田よりさつづのどく河もく信佛ありといひはけり
 府中の若者も酒狂の母力おまを神て町端へお出で珍重しと云
 不仕仕信佛信の者ありて山所の境目へ入てあるや佛の舊
 地も赤が産村あり今も河内代坂に松一樹と信佛堂ありと云人の
 ついでさつづの令後あり今傾城が松なる樹あり百年を枯てて赤
 生れ松あり此村中の八幡は祠ありと云の松先ありといひ樹は
 いまの神木と稱すといひて今も松ありといひあるべし此
 河内代小濤あけの文字ありと云えつと云れども信ていひ
 あり建長五の文字ありと云名の戦死元久二年あり此後佛を講
 する時四十八九年ありといひありと云佛の徳と縁あり氏の文字

あつす名平氏と云を信ていひて人のいひつと云はれどいへ
 村坂に源本の氏と稱しといひ道真源氏の記と云産村といひ
 打果ぬ名のいひあるといひ今も同も契ありと云
 といひつと云れ直村といひて文明の比に付時の名が産村といひ
 する國分寺の額信と云といひていへし一寺ありと云
 續日本後紀といひ和祥十一年お月公孫國より言上せしと云麻
 那拍江卿の刑部氏の婦節操ありといひて死す拍江卿を深
 代寺村のいひありと云
 芝蔭村を立川の卿ありと云立川の名の世間お付つて芝蔭村の名にか
 くれと世人といひるといひていへし村岡山山大定禪師より立田二十石を給る

里言

芝崎村
魯齊寺



東

五十二

水



予結

五十一

坂正齋藏

里言



寺
山
右
王
寺
下

東

五三

野火止村
金層山平林寺



五

予祐

五二

五三

原は火のついで焼て一帯ありて其の舊まある種ありて
 積収も申す是は焼畑といふ今之秋父信州ありてきく若
 としきありて申すは焼畑の火の之を及ぶぬ為小塚地ありて
 那天と告ゆて火止の名ありて作れ法ありてありて秋と
 て燈と申す申取とて今此村に濟家宗とて金風山平林禪寺と
 岩槻平林寺村より元禄の比此地へ移り寺ありて其の
 の大伽藍あり近比享和癸亥のころ岡村の農氏我畑小塚ありて
 壊して畑とせしむとて土申より一枚の石を穿出せし時尚
 内は者皆大敷とていへとありて早速平林寺に寄りて石を納
 申すとて因て山内へ移りて大敷退き皆平念とていへて石を納

の図をたてし

総長サ
三尺三寸

弘安
後宇多帝ノ御宇
辛ノ字

光明遍照
 十方世界
 弘安二年二月日
 念佛衆生
 攝取不捨

山内

上ヨリ中ノスペースニ二尺三寸 マツサニ寸四分

平林寺と今河内之焼畑元禄の比此地へ移りての法ありて
 禪師の比に焼畑とて付付法宗教の我場ありて時紛失申
 ありて後と申すは近國大塚村に發光山大寶寺に守渡の八

行結

五三

五三齋藏

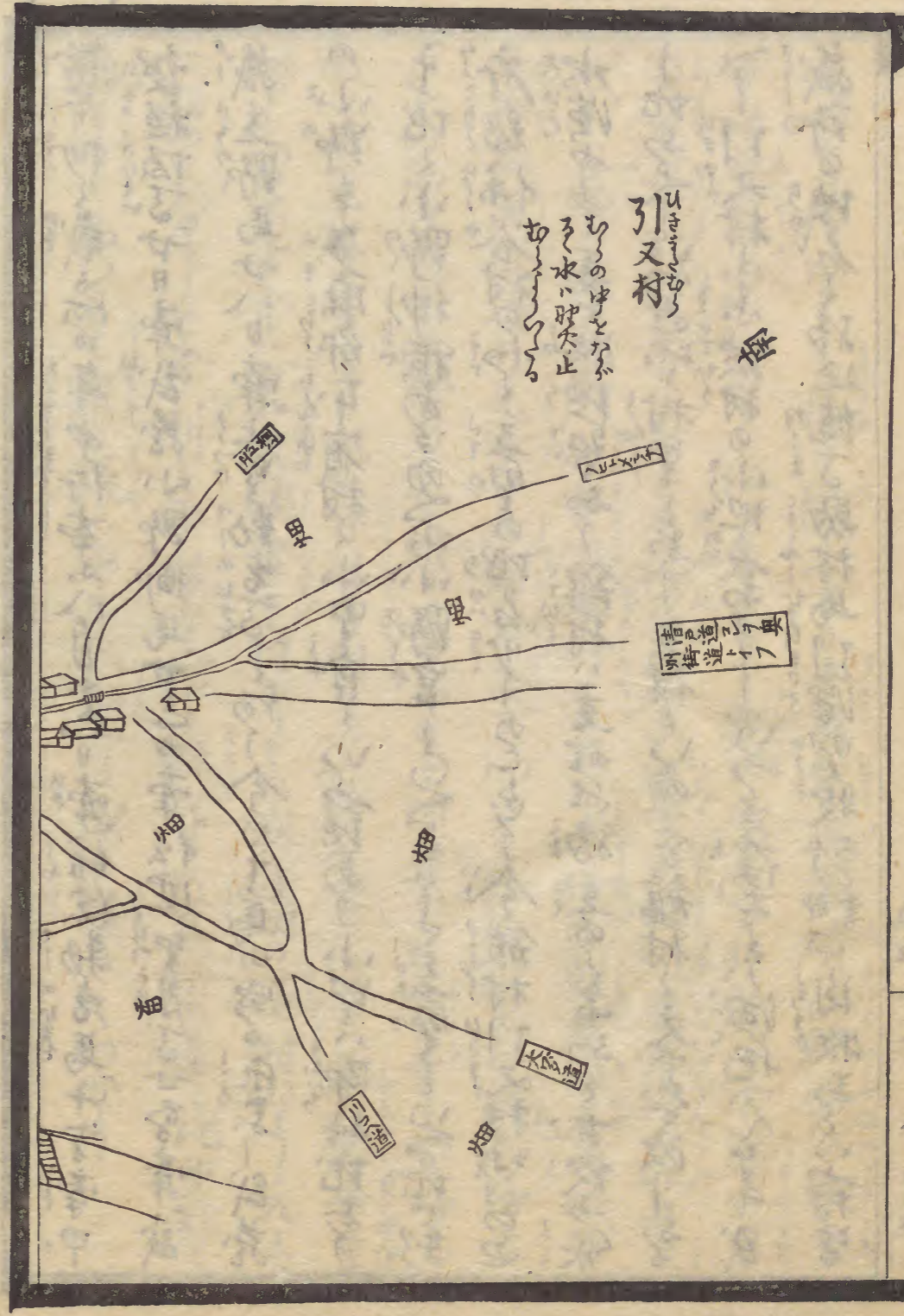
牧馬之圖



幡宮の傍河より流るる大日本國武藏國崎西縣法江郷金
 重村金鳳山磨滅寺と云ふ年月は聖武元年丁卯歲か、用山石
 室一つ更善政謹書とあり大檀那坂本中務丞政行慶雲等と比至
 光小谷野之即左馬門尉季公奉行青木左近將監朝貫漆屋山城守
 修理助義次逆井尾張守沙彌常宗とあり是平林寺の傍あり
 さぶみあけとも數百年と傳へ申あり何ゆへ大寶寺とある申と
 あり平林寺の寺と云ふ平林寺村といふ傳あり。河のハ法江御金重
 村といふとも今ハ岩槻領金重村にて平林寺村の傍村なり。元々
 一村ありと云ふと今別々平林寺村と稱するハ堂塔の寺地ゆへか
 稱する。ある星霜の移るるに知る申の多きと云ふなり。

拾芥抄に載る所の年中行事ハ八月十六日奉信使物吉馬十寺寺甲
 斐種坂了廿日奉武藏小野御馬廿二日奉信使物吉馬廿五日奉武
 藏足野馬廿八日奉上野勅をる。河今ハ馬の出。宋ハ武藏
 の小野多麻那中宿村小野宮といふ地あり小野ハ即此地あり
 此地ハ小野神祠あり。小野宮といふと云ふ。今ハ河の左に
 府邸保谷村の河の左の地名あり。今銀村又村也。河の
 水清なり。馬を牧地留あり。館村ハ三好村也。河の左に古飲少保
 一地あり。河の右に村あり。三好といふを館村ハ文字を改めあり。
 河又村ハ銀村の小地名あり。河の左に河入り。河
 左野の地名あり。河の左に館林馬引河野牧あり。河の右に館林
 河の左に館林馬引河野牧あり。河の右に館林

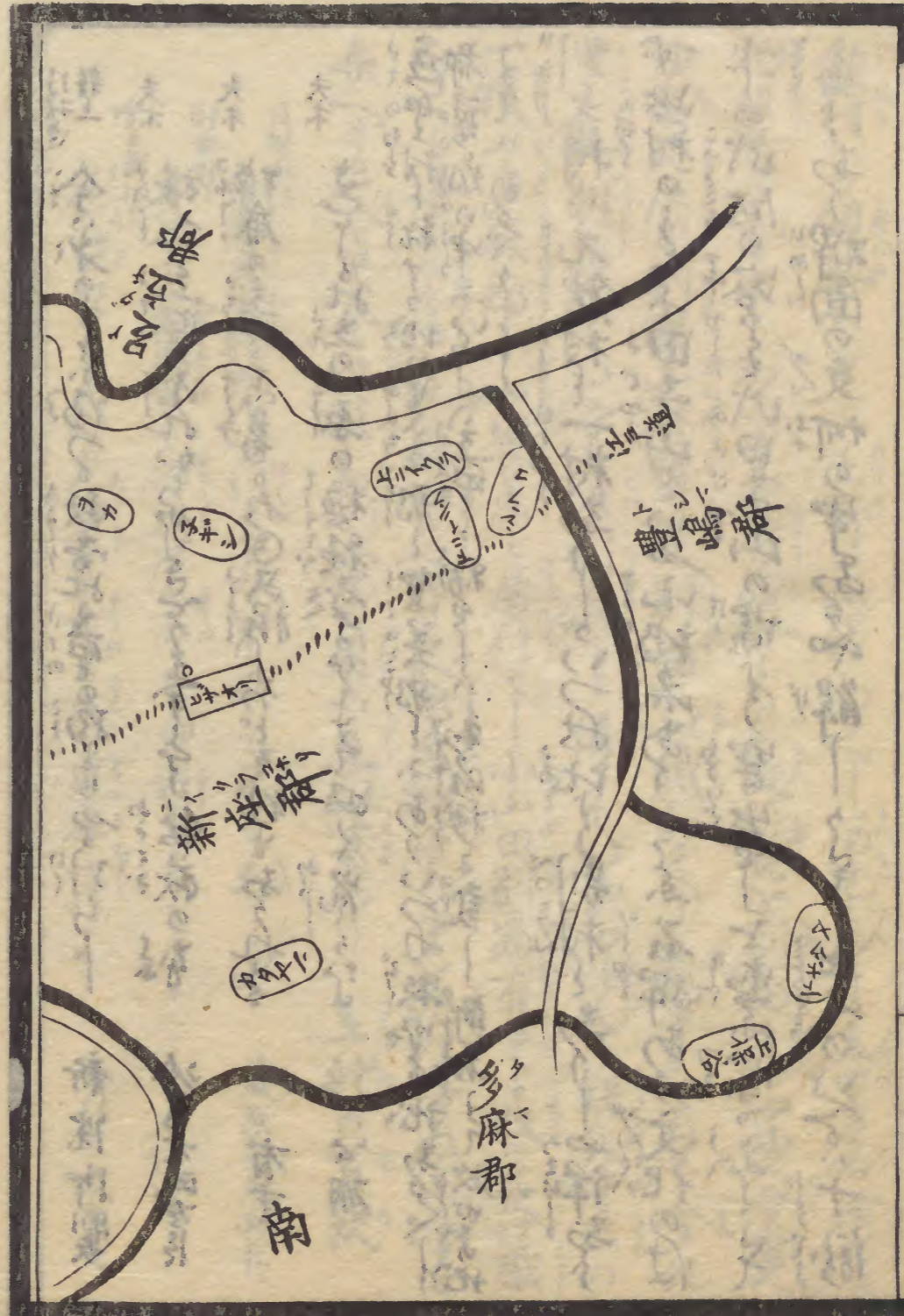
引又村
あつちのゆとを
る水に貯水止
あつちのゆと



此國道の
あつちのゆと
る水に貯水止
あつちのゆと



里言



五三



北
 新座郡
 豊島郡
 多摩郡

○この川は通無准后の河原あり地

行括

五八 取正齋藏

郡立定



武蔵野馬田川之原あり是より葛飾郡の界古馬田川と稱す
る川あり中川と稱す川は横河川と稱す今川幅僅に一町餘昔中川
と派ありて荒川に流るる土人の口は傳はけ古馬田川の原

古利根川今中川とあり

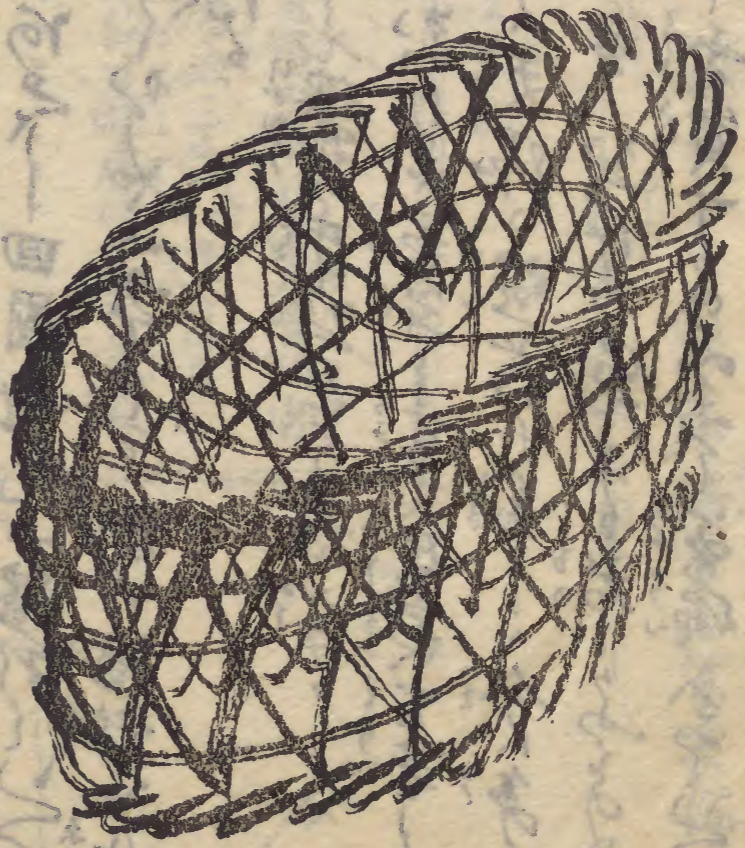
古利根川今中川とあり

〇寺活

六十

坂正齋藏

家器之圖



里言

王正齋藏

野舌



六一

坂上野舌

里言

袋村

水田



五三

あつてまゝは乳山唐崎あるゆゑ今長川の下浅草川の上は
 河は乳山唐崎と掛りて角田川にあやもどる。どく
 川の流末の邊向ひ隅田村にけしきありて隅田川の舊跡
 あり藤氏康の山田とて今後澤あり武蔵野に出射は紀行
 とありれを八月十日湖邊より湖よりなるまゝに馬
 と任てゆく長井の庄と長井の庄と長井の庄と長井の庄と
 湖邊と分てゆくまゝありて大沢の庄と大沢の庄と大沢の庄と
 かく隅田川とてなるゆゑ藤氏の比はかくなる。なるを鑑之
 中も河も又城もは流るゝありて八雲法妙の都もハ隅田川
 ありて東近と河もありて又後拾遺と和泉ふくむる都

ものほけふあまけきを係たり。
 日向を河もあまけきを都のとて我とてせよ。和泉武部
 東本著の集り少狩内付の録
 十六夜見たりとてなるゆゑなるゆゑなるゆゑなるゆゑ
 とありて浦もありてなるゆゑなるゆゑなるゆゑなるゆゑ
 阿解
 太平記武蔵野合戦の章も魚吹峠又芋吹峠と書てしす訓上座
 行原の界と河もは記籍者れあやまぬ。ありて峠と文字の通ぬを芋吹峠

予活



六六

坂正骨藏

里言

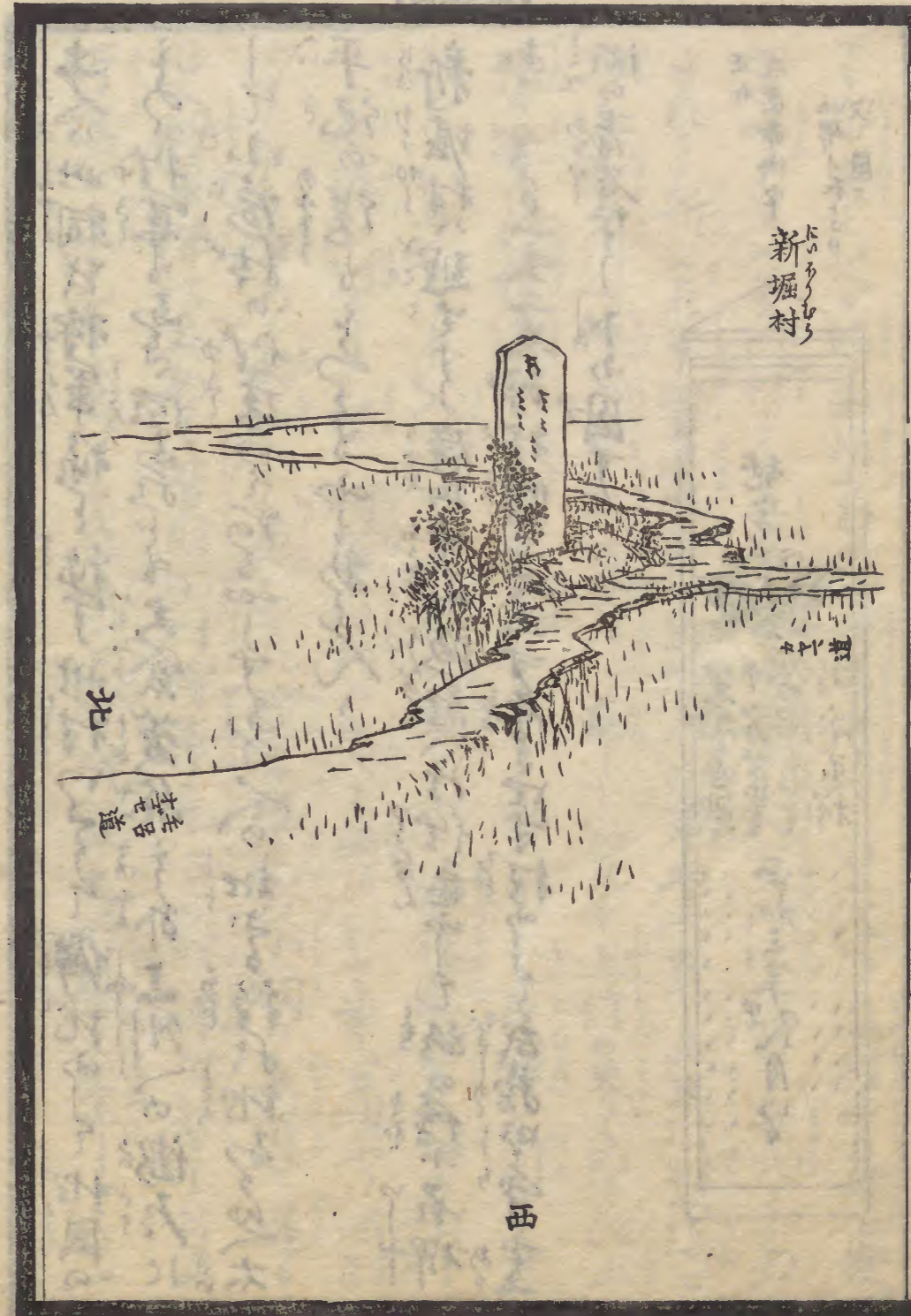
將軍河村



五三骨藏

里言

新堀村



北

持呂道

西

三三齋

